



学校教育目標「心をつなぎ 笑顔いっぱい みんなが輝く平戸台っ子」

横浜市立平戸台小学校 学校だより

ひらりん cha-cha-cha



令和8年度 5月号 (令和8年4月30日発行)

学校ホームページ <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hiradodai/index.cfm/1,html>



学びの輪、  
地域の和。  
未来へ繋ぐ

## 目を合わせて関わり合うことを大切に

校長 竹下 護

この季節、草木の多種多様な緑色を見て毎日が楽しめます。雨が上がり、日が差すと、風に揺られた葉がきらきら輝いて見えます。その輝きを見ると、私は平戸台小学校の子どもたちの姿をイメージします。単一の緑色ではなく、一人ひとり異なる231色の緑が輝いているイメージです。一人ひとりの子どもたちが、笑顔や真顔で輝くように過ごしている姿は、見ただけでとても幸せな気持ちになります。



↑雨上がりの朝、遠くに見える富士山

さて、私は、今の小学生には、今の保護者が子どもの頃（私が学級担任を受け持っていた20～30年前）とは違うと感じていることがあります。3つ挙げると次のとおりです。

- ①自己主張が明確で、「自分はこうしたい」「これはいや、無理」がはっきりしている子、逆に、曖昧な指示が苦手な子が増えている。
- ②情報量が多く、インターネット環境等を通して大人より狭い範囲で物事に詳しく、価値観も多様で、今までの一斉一律の動機付けが通じないことがある。
- ③コロナ禍を幼少期に過ごし、対人関係の距離感に各自のくせがあり、相手によって離れるか触っているかの二択だったり、感情が繊細だったりする子がいる。

これらの特徴をもつ子どもたちに対して、昭和・平成時代と同じ教育の方法では、子どもたちの10年後、20年後…に通用する力は付きません。今、学校は、「令和の日本型学校教育」という、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指しています。

今年度、平戸台小学校は、平戸台の地域に暮らす子どもたちがこの学校に集まって学び合うよさを大切にします。そのひとつが「目を合わせて関わり合うこと」です。

今の子どもたちは（大人も）、画面越しのコミュニケーションが増え、人の目を見ること自体の経験が少ないまま育ち、意思表示もアイコンやスタンプで済ませることがあります。学校では、友達や職員と目を合わせて関わり合うことを大切に、コミュニケーションの質を向上させ、安心が積み重なり、互いに心もつながり、笑顔いっぱい、みんなが輝く平戸台っ子の育成につながる教育活動を進めていきます。

ご家庭や地域でも、子どもと目を合わせて関わり合う時間を意識的に増やしてください。私もパソコンやスマホの画面より、家族や周囲の人と目を合わせる時間を大切にします。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指しています。

↑「令和の日本型学校教育」について詳しくは、こちらの文部科学省ホームページをご参照ください。